

< 認知症に関する事例 >

■事例演習の達成目標

- ①早期発見・早期治療の重要性について、説明、指導ができる。
- ②ICF思考による情報整理、分析について説明、指導ができる
- ③地域資源やインフォーマルな支援を含んだ「自立支援のケアプラン」が作成できるように指導ができる
- ④多職種や地域住民との連携の必要性を理解し、ケアプランに盛り込めるように指導ができる
- ⑤認知症のある人やその家族が地域で住み続けられるために必要なサービス等の開発、提言ができる

■事例を選定する際の視点

■認知症に関する指導事例の内、下記の①～②すべてに該当するもの

- ①認知症の原因疾患（アルツハイマー型認知症、脳血管疾患型認知症、レビー小体型認知症など）が判別されている指導事例（困っている症状のみで、認知症なのか精神疾患なのかわからない事例は含まない）。
- ②本人の望む暮らしがわかる指導事例。
（本人の意向がわかっている指導事例であり、家族が困っていることがだけがニーズにあがっている事例は含まない）

■提出する事例を上記の指定された類型とする理由

記入例：レビー小体型認知症と診断され、専門医から症状や対応の説明を受けているが、家族の本人への対応が不適切なため、BPSDが悪化している事例を指導した等